

フランクフルトブックフェアレポート

2015年10月14~16日

(株) トランネット 近谷浩二 & 小澤大介



Contents

はじめに

1. 会場のレイアウトが今年から変更
2. 日本の作品にオファーが続々
3. 菅直人氏がドイツで講演
4. 依然存在感のあるカラーリングブック
5. 同時多発的なイベント
6. 各国の翻訳助成
7. 書店を巡って気がついたこと
8. 現地の出版ニュースザッピング
 - ①世界をときめかせる翻訳ブーム到来
 - ②国境を越え始めた作家たち
 - ③サブスクリプションモデル（定額制）は普及するか
 - ④ミリー・マロッタ インタビュー
 - ⑤イランがフェアをボイコット
 - ⑥「ミレニアム」シリーズの続編の刊行がスタート



はじめに

今年のフランクフルトは寒かった。ミーティングの合間に屋外の屋台でミネストローネ風の豆スープを食べていると、若い女性と年輩の女性が同じテーブルの向かいに座った。私たちが食べているスープを見て、「あなたたちのスープのほうが美味しそう。そっちにすれば良かったわ」と気軽に話しかけてくる。訊くと2人は母娘で、イギリスの出版社に勤めているという。私たちが日本から来ていることを伝えると、目を輝かせて「ぜひ私たちのブースに寄ってちょうだい」と誘ってくれた。話をしていると、なんと2人は近頃ブッカー賞を取ったイギリスの Oneworld の創設者 Juliet Mabey 氏と編集者の shadi Doostdar 氏だった。メールや SNS ではあり得ないセレンディピティーが起こるからブックフェアは面白い。彼女たちはブッカー賞受賞後のドタバタ劇のエピソードを教えてくれたうえに、私の質問——受賞後の重版部数はどのように決めたのか——にも丁寧に答えてくれた。

Oneworld のブースに飾ってあったブッカー賞受賞作、『A Brief History of Seven Killings: A Novel』のポスター



ブックフェアでは毎回、どんな著作権情報が飛び交うのかとワクワクするのだが、『Publishers Weekly』がフェア直前にニューヨークの有力エージェントに取材して、それぞれの一押しタイトルを記事にまとめていた。主にフィクションだが、興味のある方は是非次の記事をご一読いただきたい。

[What Hot Titles U.S. Agents Will Be Taking to the 2015 Frankfurt Book Fair](#)

では、私たちが見た今年のフランクフルトブックフェアをご紹介します。

1. 会場のレイアウトが今年から変更に

前年までは3～8号館までを使用していたが、今年からは6号館までに圧縮。アポ間の移動がスムーズになった。

2. 日本の作品にオファーが続々

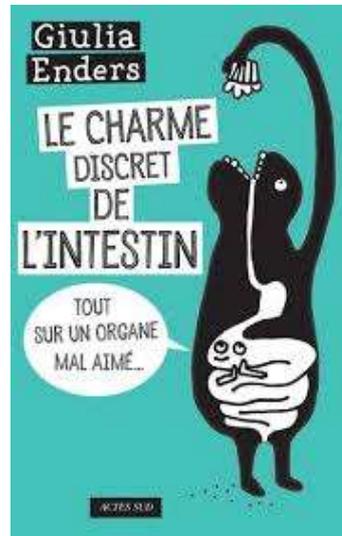
『人生がときめく片づけの魔法』（近藤麻理恵／サンマーク出版）の世界的成功により日本の書籍が注目を浴びているとあちこちで報じられているが、実際に小社を通じて欧米デビューする著者も後を絶たない。

『視力回復で近視も老眼も怖くない 即効！「見る力」フィットネス』（中川和宏／新潮社）はイタリアでの出版が決定した（写真右上）。今後、ドイツでも出版される見通しだ。

『腸脳力』（長沼敬憲／BAB ジャパン）もフランス語版が出版される見通し。

実はこれに先立ち、ドイツ人女性医学生による腸の魅力を解説した本がドイツで100万部を超えるベストセラーとなり、フランスでも翻訳版が20万部を突破したと聞いていたので、『腸脳力』を世界の出版関係者に英文のニュースレターでお送りしたところ、案の定、フランスからオファーの手が挙がった。（次頁左が『腸脳力』、右がミリオンセラーとなったドイツの腸の本）





実用書だけではなく、日本の小説も注目を集めている。先日ノーベル平和賞を受賞して話題をさらったベラルーシの作家、スヴェトラナ・アレクシエービッチ氏のアメリカの版元である Dalkey Archive Press から、小社を通じて直木賞作家の白石一文氏の2作品が英語で出版される予定だ。

また、今回はディスカヴァー・トゥエンティワン社さんのブースをお借りして、以下のような本も世界の関係者に紹介した。(左から『世界で一番貧しい大統領のスピーチ』、後藤健二氏のシリーズ、『天使スリーピーの世界子守歌めぐり』)



3. 菅直人氏がドイツで講演

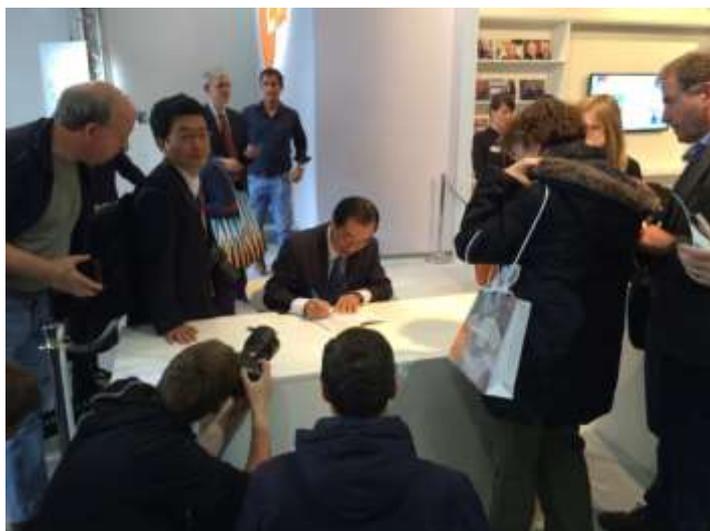
『東電福島原発事故 総理大臣として考えたこと』(菅直人/幻冬舎新書)のドイツ語版刊行を記念して菅直人氏がドイツに招待され、フェア会場でインタビューも行われた。メルケル首相が福島原発事故をうけて脱原発に大きく舵を切ったこともあ

り、関心の高さがうかがえた。

海外への著作権輸出をお手伝いさせていただいていることから、管氏と意見交換する機会を得ることができた（この後チェルノブイリ入りされるとおっしゃっていた）。ドイツ語に続き、できれば英語版も出版されてほしいと願っている。



菅直人氏のインタビューの様



サインをする管氏



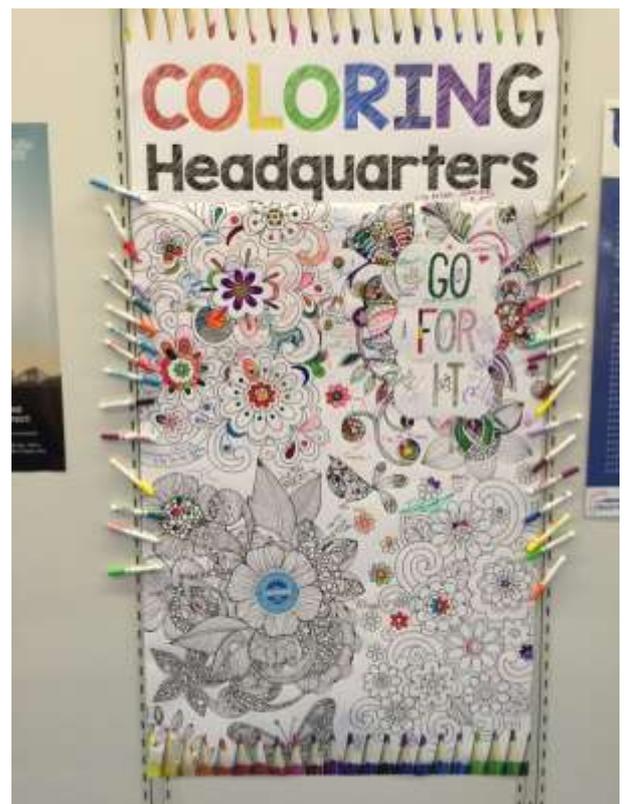
菅直人氏とともに

4. 依然存在感のあるカラーリングブック

クラフト関係やビジュアル本の出版社のブースでは、必ずと言ってよいほどカラーリングブックを目にした。ブースの通路側など、目立つところに掲げている出版社も。下の写真は世界的なベストセラーで、すでに邦訳もされているミリー・マロッタのもの。



点数は多いものの絵柄の欧米色が強いものが大半で、魅力的なものは少なかったのだが、ぬり絵をした後に折り紙にもなるもの(やや苦し紛れの感は否めないが・笑) など、ひねりがある作品をリクエストした。フェアの時間外に現地の書店をいくつか覗いたところ、大きめの書店にはほぼ確実にカラーリングブックの陳列台があり、ドイツでも流行っていることがうかがえた。



5. 同時多発的なイベント

会場内を歩いていると、あちこちでトークイベントやセミナーが行われていた。満席のものが多く、立ち見客が通路にあふれていることもある。使用言語はドイツ語のものが多かった。

個人的に魅かれたのは、ドイツの大手メディア企業ベルテルスマンの会場で行われていたアストリッド・リンドグレンについてのトーク。今年はリンドグレンの生誕 100 周年で、各国で日記や評伝が多数出版されたようだ。しかし、ドイツ語を解さない筆者（小澤）には内容がわからず、ドイツ語の学習を誓った。チリの作家イサベル・アジェンデのトークも気になったが、アポの時間と重なって断念。



6. 各国の翻訳助成

各国のブースでは翻訳助成についてのPRが目立った。「ミレニウム」シリーズやムラカミ作品などのヒットの影響で、欧米では翻訳書の割合が増え続けているとのことで、その流れをうけてのことなのかもしれない。今後機会があれば、各国と日本の取り組みを調べて比較してみたいと思っている。



7. 書店を巡って気がついたこと

今回空き時間に現地の書店を複数回って、ドイツでは雑貨や CD、DVD など、本以外の商材を置いている店が多いことに気づいた。また、ほとんどの店にオーディオブックのコーナーがあり、ベストセラーの棚に書籍とオーディオ版を一緒に並べている書店もある。フィクションからノンフィクションまで種類も豊富で、ドイツではオーディオ版の需要も高いことがうかがえた。



SPIEGEL Bestseller			
Belletristik			
1	Jojo Moyes Ein ganz neues Leben Wunderlich, 19,95 €	3	21
2	Lagercrantz & Larsson Verschwörung Heine, 22,99 €	2	13
3	Dörte Hansen Altes Land Knaur, 19,99 €	4	10
4	Jussi Adler-Olsen Takeover dtv, 19,90 €	3	17
5	Rebecca Gablé Der Palast der Meere Bastei Lübbe, 29,00 €	5	9
6	Jonathan Franzen Unschuld Rowohlt, 26,95 €	7	12
7	Umberto Eco Nullnummer Hanser, 21,90 €	▲	▲
8	Günter Grass Vonne Endlichkeit Siedt, 28,00 €	▲	▲
9	Jenny Erpenbeck Gehen, ging, gegangen Knaur, 19,99 €	▲	▲
10	Ingrid Noll Der Mittagstisch Diogenes, 22,00 €	▲	▲
11	Rafik Schami Sophia oder Der Anfang ... Hanser, 24,90 €	▼	▼
12	Derek Landy Das Sterben des Lichts Loewe, 18,95 €	▼	▼
Sachbuch			
1	Hamed Abdel-Samad Mohamed. Eine Abrechnung Dietrich, 15,90 €	13	34
2	Peter Wohlleben Das geheime Leben der Bäume Loewe, 19,99 €	1	4
3	Dalai Lama & Alt Der Appell des Dalai Lama ... Rowohlt, 8,99 €	2	3
4	Astrid Lindgren Die Menschheit hat den ... Ullstein, 24,00 €	▲	▲
5	Wilhelm Schmid Solomon Insel, 2,00 €	▼	▼
6	Navid Kermani Ungläubiges Bäumen C.H. Beck, 24,95 €	▼	▼
Nr. 42/2015 vom 10. Oktober 2015			



8. 現地の出版ニュースザッピング

①世界をときめかせる翻訳ブーム到来

2015年最大の出版ニュースは、『人生が変わる魔法の片づけ』（近藤麻理恵）の世界的成功に尽きるだろう。『Strange Weather in Tokyo（センセイの鞆）』もイギリスを中心によく売れている。

これまで欧米の大手出版社は（売れないという理由で）翻訳書に興味を持たなかったのが、今では様相が一変した。Amazon Crossing（翻訳書に特化した Amazon Publishing のインプリント）は Dalkey Archive Press を抜き、アメリカで一番多く翻訳書を出す出版社に成長を遂げた。今後5年間で1000万ドル（約12億円）の予算を翻訳書にあてるという。インディー系の出版社も大手に負けじと翻訳書にも勝機を求め始めている。例えば、いくつかの異なるスペイン語圏の国のインディペンデント系出版社がアライアンスを組んでお金を出し合い、大手出版社に対抗してビッグタイトルを獲得する動きもある。これら一連の動きは、翻訳書は売れないというジンクスが過去のものとなりつつあることを示しているのではないだろうか。

（Publishing Perspectives Show Daily Friday, 16 October 2015 より）

②国境を越え始めた作家たち

自己出版する著者にとっては、作品を書くよりも売ることのほうが難しいと言われている。自作品の著作権を海外に売りたい著者も大勢いるが、ハードルが高い。しかし、新たな動きも出てきている。Going Global というキャンペーンを展開しているイギリスのNPO団体、Alliance for Independent Authors (ALLi) には、現在、世界じゅうの著者約2万5000人が所属。ALLiの設立者でディレクターのOrna Rossは、自国のみならず海外での展開を目指す著者会員に以下のようなアドバイスを送っている。

- ・ 海外市場に精通したエージェントを見つける
- ・ 翻訳者を自分で見つける
- ・ [babelCube](#) や [Fiberead](#) のような著者と翻訳者のマッチングサイトを活用する

また、バージニア大学の講師 Jane Friedman は、著者と翻訳者のマッチングサイト [Literary Translations](#) の活用を推奨している。Literary Translations の設立者で、自らも翻訳者であり著者でもある Athina Papa は、質の高い翻訳を確保するには \$10,000(約120万円)、1ワードあたり12セント(約14.4円)の支払いが妥当とい

う。

もちろん翻訳者が見つかり、翻訳原稿が用意できたとしても、その先には現地出版社の編集者による企画の採用の可否の判断もあるわけで、自国以外の市場で自らの作品を展開しようとする自己出版の著者には一筋縄ではいかないのが現状だ。

(Publishing Perspectives Show Daily Friday, 16 October 2015 より)

③サブスクリプションモデル（定額制）は普及するか

定額制のパイオニア的存在 [Oyster](#) が来年、創業から 2 年という短さでビジネスを閉じることとなった。これを定額制モデルの限界と考える向きもあるだろうが、デンマークで同じモデルで躍進する [Mofibo](#) は自らのサービスの海外展開に余念がなく、Oyster 閉鎖のニュースもどこ吹く風といった余裕が感じられる。ちなみに Oyster は読者に月額 9.95 ドルで読み放題サービスを提供しており、大手の HarperCollins、Simon & Schuster、Bloomsbury がこれまで Oyster にコンテンツを供給していた。一方、Penguin Random House や Hachette は定額制モデルに対して慎重な姿勢を貫いてきた。来年閉鎖が決まった Oyster の創業者らはすでに Google が始めるブックプロジェクトに引き抜かれたとの情報もある。定額制を含め、ネットによる読書形態の進化はまだ始まったばかりで、Amazon や Google の参入により、これから大きな変化が起こるだろうと多くの関係者は予測する。

(The Bookseller Daily Friday, 16 October 2015 より)

④ミリー・マロッタ インタビュー

大流行中のカラーリングブックは、過去 12 カ月間世界を席卷している。ヒットのきっかけを生んだイラストレーターのミリー・マロッタに話を聞いた。

Q：大人向けのカラーリングブック市場にギャップがあったと思いますか？

A：私はずっと、色を塗ることや絵を描くこと、スケッチをすることは非常に魅力的で、くつろいだ気持ちにさせてくれると思っていました。なので、他の大人たちも同じように感じるだろうという確信がありました。問題は、全員が絵を描く時間や画材を持っていたり、美術教室に通えたりするわけではないということなんです。

Q：なぜ大人向けのカラーリングブックはこれほど劇的に人気が出たと思いますか？

A：絵を塗ることは人を創造的にし、ストレスを解消してくれる、とてもシンプルで簡単な方法だからではないでしょうか。また、デジタルなものから距離を置いて、手触りの感覚を得ることもできます。さらに、芸術的になりたいけれど、ゼロからスタートするには自信やスキルが足りないと感じている人たちに、素晴らしい機会を与えています。

Q：この流行はどのくらい長く続くとお思いますか？

A：カラーリングブックは、大人たちが以前ならちょっとばかばかしいと感じたかもしれない行為にふける許可を与えてくれ、心からリラックスでき、やりがいのあるアクティビティとして一般に認められるようになりました。もう当たり前のものとして浸透していると思います。

ミリー・マロッタの Animal Kingdom は、ニールセン・ブックスキャン UK によると、307,000 部以上を販売。イギリスの大人向けのカラーリングブックの流行をリードしている。これまでに 18 週、イギリスのペーパーバックのノンフィクション部門で 1 位を獲得。これは 1998 年に記録が始まって以来、歴代 3 位。

(The Bookseller Daily Wednesday, 14 October 2015 より)

⑤イランがフェアをボイコット

フェア前日の 10 月 13 日に行われたサルマン・ラシュディの基調講演に抗議し、イランはナショナルスタンドをキャンセル。イランの出版社もフェアをボイコットした。ラシュディは『悪魔の詩』刊行後の 1989 年に、当時のイランの最高指導者アーヤトッラー・ホメイニーに死刑を宣告され、いまだ解除されていない（ホメイニーが死去したため、解除は不可能となった）。

イランの印刷会社のディレクターは Bookseller にこう語った。「550 人以上のイラン人がフェアのために宿泊施設などを予約していました。皆、多くのお金が無駄になるとわかっていてボイコットしたわけですが、私はイランがなぜフェアをボイコットしたかを伝えるために参加したいと思いました。私は、ドイツからイランまでは 1 人 1 人のつながりによって 1 つに結ばれていると信じています。その結び目の 1 つを切ってしまうと、つながりは切れてしまうのです。ドイツにも 100 万人以上のイスラム教徒がいるのですから、私たちはラシュディがスピーカーとして招聘されるべきでなかったと思います」

一方ラシュディは、「(言論の自由は) 私たちが吸う空気のようなべきです。言

論の自由について戦わなければいけないことは、近年の現象のなかでもっとも残念なことです」と述べた。

フランクフルトブックフェアのディレクター、Juergen Boos は、イランの出版社のボイコットに失望を表明。「言論の自由に交渉の余地はありません。それは私たちの根幹にあるものです。出版社と書店は自由のために声を大にして訴え続けなければいけません。それが民主的社会の基盤です」

(The Bookseller Daily Friday, 16 October 2015 より)

⑥ 「ミレニアム」シリーズの続編の刊行がスタート

スウェーデンの小説家 David Lagercrantz は、「ミレニアム」シリーズを引き継ぐ著者として、Stieg's estate と新たに2作品分の契約を結んだ。Lagercrantz 著の最初の続編（「ミレニアム」シリーズ第4弾）『The Girl in the Spider's Web』は、イギリスでは8月に刊行された。オリジナルシリーズはイギリスで610万部以上を売り上げており、販売記録が残っている限りで、Larsson はイギリスで一番売れている翻訳書の著者となった。著者の兄弟で、Stieg's estate のマネジャーである Joakim Larsson はこう語る。「読者の反応は圧倒的にポジティブだった。David が Stieg が築いた作品世界とキャラクターを引き継いでくれて、とても幸せだし感謝しているよ」

シリーズ第5弾は2017年、第6弾はさしあたり2019年に、スウェーデンの Norstedts Publishing House から出版の予定。

(The Bookseller Daily Friday, 16 October 2015 より)

Copyright(c) 2015 TranNet KK all rights reserved



株式会社トランネット
〒106-0046 東京都港区元麻布 3-1-35
c-MA3 A 棟 4 階
<http://www.tranet.co.jp>